



ファン・サポーターカンファレンス

- 開催日時：2015 年 12 月 12 日（土）18:00～19:30
- 開催場所：京都市市民スポーツ会館
- ご参加：ファン・サポーターの皆さま（約 160 名）
- 出席：株式会社京都パープルサンガ 代表取締役社長 山中大輔
株式会社京都パープルサンガ 強化部部长 野口裕司
株式会社京都パープルサンガ 取締役運営・広報統括 細川浩三

【開会のご挨拶】

本日は、大変お忙しい中、京都サンガ F.C. ファン・サポーターカンファレンスにご参加いただき、誠にありがとうございます。

出席者をご紹介させていただきます。

代表取締役社長 山中大輔、強化部長 野口裕司

まず初めに、山中より「2015 シーズンの総括ならびに 2016 シーズンに向けた基本方針」を発表させていただきます。その後、質疑応答に移らせていただきます。いただいた質問に対し、山中と野口よりお答えさせていただきます。それでは、山中社長 よろしく願いいたします。

皆様改めましてこんばんは。私より「2015 シーズンの総括ならびに 2016 シーズンに向けた基本方針」を発表させていただきます。

【今季の反省】

私が就任して一番驚いたのが、どんなサッカーしたいのと言えなかった事。今季の順位になった一番の大きな原因は、組織として一貫性が図れていなかった事。結果として統一したチームを作り上げる事が出来なかった。それはなぜかと言うと、選手を獲得した後に監督を選んでいる、つまりその監督がやりたいサッカーができる選手がいたかと言うと、必ずしもそうではなかった。今年の補強は、強化部が獲得したかった選手はほとんどいなかった。

また、ポジション争いの欠如があった。それは、今年の前半戦の選手の起用方に問題があった。

石丸監督になってからは攻撃面、守備面において何度も練習中に確認していたため、7 月の終わりにやってきたことが実り失点が急減した。前監督の時の失点率は 1.5 点だったのが、石丸監督になってからは 0.75 点と半減している。最初からこういう教育をしていれば、今季のような惨めな結果にはならなかったと考えている。それが個人のパフォーマンスを発揮できない環境を作ってしまった。

サポーター連合会の方々とは、いろいろな方と話をしたことが、サポーターさんとフロントは本来一体化にならなければいけない。サポーターさんがいなければ試合をしていても成立しないのと同じように、選手と監督がいなければチームは結成できない。スポンサーさんがいなければチームが維持できない。その三位一体がまったく出来ていなかった。アウェイの試合を見たり、サポーターさんに話をきいたりして「俺達は本当に必要なか」という声も聞こえてきた。今後はサポーター、スポンサー、フロントがしっかりと意思疎通をしていきたいと思っている。とにかく信頼関係、それは言葉だけではなく日ごろの言動がメインになってくると思います。

これだけ出来ていない事があったから、ファン・サポーターさんに非常に悲しい思いをさせた事が反省点だった。



【来季の基本方針】

来季の基本方針だが、まず今までの反省を生かし、統一したチーム作りを推進している。監督の方針、戦術にあった選手を選定している。まだ具体的な名前は挙げられない。

ご存知だとは思いますが、石丸監督のサッカーはポゼッションサッカーであり、そのサッカーをするにあたって、アタッカーやボランチが非常に重要になってくる。現在監督が欲しい選手の獲得に動いている。素人の私は一切口出ししてはいない。

ただ、億を超える選手は動画や資料を散々見させてもらった。そこに該当する選手であれば、例えば攻撃的 MF なら、ガンバ大阪の遠藤選手とどう違うのか、どっちが上なのか、そういうところまで見させてもらっている。

次にポジション争いの推進。これは監督の意図にも合っているが、すべてのポジションで競合できる選手を入れる。ものすごくお金がかかる。お金はかかるが、サンガがこの順位にいてもいいのか、私自身ものすごく感じているし、少なくともプレーオフには出て欲しい。できれば来季、自動昇格できる位置まで持っていきたい。監督、強化部においても最初に予算内でやったらこうなるという選手構成を持ってきたが、どう見てもプレーオフに出られたらラッキーというレベルだった。したがって、我々の予算規模を上回る強化費を使おうと思う。仮に赤字になったとしても強化して行こうと動いている。ポジション争いにおいて脱落する人はメンタル的に弱いと言うことで、今いる選手が新しく来る選手かを使っていく。監督自身も練習中のパフォーマンスや調子のいい選手を先発起用すると意思表示している。来季は試合にでる選手全員が能動的に動けるようになってきていると信じている。

意思疎通の強化についてはミーティングなどで私も見させてもらっているが、例えば 3 バックにしてしっかりと守れるのか、マンツーマンにするのかなど、色んな事を研究してもらっている。試合中に 4 バックから 3 バックに変更して前がかりに攻めていこうというような時でも、選手たちが戸惑う事のないように意思疎通のしっかりとできるチームに教育をしていこうと思う。

次はサポーター、フロント・チームの信頼関係の構築についてだが、初めてサポーターミーティングに参加して驚いたのが、チームや試合について言われると思っていたが言われなかった。これは信頼関係が冷え切っていたと自分を感じた。試合に勝てばみんな一体感をもって積極的に喜び合いたいと考えている。

ついでに今後シーズン中に行うサポーターミーティングの情報を開示する。またサポーターがチームを知りやすい、応援しやすい仕組みを構築していきたい。詳細については後ほど説明する。

来季前半の観客動員については、サポーターの力を借りても今季の平均 7,500 人の観客動員を上回るのには難しいと考えている。しかし試合に勝ち続け、下季にはお客さんがどんどん来場できる体制を整えていきたい。

ホームページを見てくれている人はわかると思うが、経営理念を出した。今まではタイプの違う監督を連れてきて選手を戸惑わせてしまった。まだ浸透していないが、サンガのバリューは「闘争心を持ち、フェアプレーに徹し、最後まで全力でプレーする」この理念を今後サンガの方針としていく。他の監督から売込みがあったが、サンガの理念に一致しないために断り、石丸監督の続投を決定した。これは当面の間変えず、見ていて面白いサッカー、勝つサッカーを続けていきたいと思っている。

(質問) 先ほど強化部主体で取りたい選手が一人もいなかったとありました、選手を先に決めて後で監督を決めたと言っていたが、じゃあ誰が主導で今季は選手を取ってきたのか

(山中) 本来主導すべきじゃない人間が主導した。今ではこちらの情報は一切漏れていない。それは必要最小限の知らなければいけない人間にのみ情報を知らせているからだ。過去の反省から、何千万する選手に対して、はいそうですかとお金を出すわけにはいかないの徹底的に質問をした。この選手と比べてどうなんだ、何が違うんだ、その選手のビデオを持ってこい、これから何年働けるんだ、今いくつなんだ、どういう性格なんだ、まで質問した。性格の悪い人間がチームにいたら、チーム自体がぐちゃぐちゃになる。これは普通の社会人となんら変わりはない。ただ単に特殊技能としてサッカーができるというだけで、チームとして仕事が出来なくなる。そういった意味ではなんら社会人と変わらない。



- (質問) 先ほど強化費を増すと saying だったが、どれくらいの額なのか。それは 15 億以下なのか、以上なのか。最終的に強化費ってというのが J1 に定着できるかどうかだと思うが、これは継続してやれることなのか、それとも一過性なのか
- (山中) 今季については契約解除の人に相当費用を使っているが、それを引くと倍近い費用を使っている。周りのチームがどんどん補強していくなかで、これくらいしないと勝てない。
- それは答えることが出来ない。ただ他のチームの社長に聞いたら、昇格できるレベルの額だと言われた。J2 で勝てるレベルだ。色んな要素があるが自分の考えでは J1 の二桁の上の方だと思っている。降格争いに巻き込まれる可能性は無いと思っている。来季 J1 にあがるとして、もう一段やらなきゃ勝てない。移籍金などがあるため一過性ではある。しかしお金の高い選手も取らないと勝てない。若手ももちろん育てるが、セカンドの選手がしっかりしていないと今季の天皇杯のような苦しい試合になる。だから来年は胸につけている星を取りに行きたいと思っている。そうするとお金を掛けざるをえない。
- (質問) シーズン途中にフェホ選手を補強したが、毎年監督が変わって取った選手を使わない事が多いが、選手を取った目的はなんだったのか
- (野口) 先ほど社長が言っていた通り、強化部外の人主導でやってから正直難しい部分はあった。ただ、自分の立場は NO と言える立場だったが、それを言えなかった私の責任だと思っている。
- (質問) サポーター、フロント、スポンサーの信頼関係の構築の件だが、クラブで育った選手が他のクラブに移籍してしまう状況があるが、サンガで育った選手がサンガに対して忠誠心を育てることは出来ないのか
- (山中) 駒井に対しては私自身が引き留めたいし、話を聞いた。その内容は明々白々には言えないが、駒井のサンガに対する愛着は何も変わっていない。それはフロントの責任だと思っている。先ほど性格の話をしたと思うが、チームの人数は 30 人くらいだが、その人数は小学校のクラスよりも少ない人数だが、その少ない人数の中に非常に性格の悪い人間がいて、裏で何かするような選手がいるとクラスがどうなるかわかると思う。逆にみんなで頑張ろう、今度の運動会で絶対勝つぞ、などの発言をする人間が主導権を握れば当然強くなると思う。学校生活の話をしたが、言えばクラスは好きだけど転校するようなものと一緒。実は彼らが言うのは性格の事を言っている。取ってきたい選手がいるなら実際に会って来い、これから外国人選手を取るにあたって、違うスカウトに会わずなど、そういうこともしている。いくら技術があつてうまくろうが輪を乱すやつがいいたらチームはぐちゃぐちゃになる。ということ駒井と話をする中で気づくことができた。
- (野口) 先ほどユースの子たちの話が出たが、ユースの子たちは誰よりもサンガ愛がある。それは先ほど社長が言ったがフロントのせいと思っている。今回の駒井もありとあらゆる手段を使って引き留めようとしたが、駒井には海外でやりたいという夢があり、そのためにも年齢的にも最後のチャンスだと、J1 でやってから海外に行きたいと、どうしても其の思いが強かったということで、引き止める事は出来なかった。移籍した選手はみんなサンガ愛を持っていて常にサンガの心配をして連絡をくれる。なので、移籍した選手のせいではなく、全部私たちのせいだと思っている。
- (質問) 選手補強にお金がかかるとご説明されましたが、スカラーにも費用が掛かるはずで。補強と同様、トップに昇格する判断とかを考えることも必要で、将来のクラブづくりだと思います。それが基盤だと考えています。クラブのお考えを教えてください。
- (山中) ご指摘の通りだと思います。クラブは来年 1 月 1 日付けで組織の変更に取り組みます。下部組織も含め、サンガに加入する選手たちがサッカー人として生活ができないのに昇格や補強してしまうことはいけません。反対に、有望な選手を見逃してしまうようではいけません。そうならないためにも私は一元的に管理できる体制にしたいと考えます。



(質問) 一元管理ということですが、2013年に祖母井氏が退団し、2014年に高間氏が退団・細川氏が異動となりました。そして今年は野口氏が組織の長となっておりますが、GMはおかないのか？サッカーの競技面ではどなたがチームのビジョンを描くのか。

(山中) GMについては、いろいろ調べましたがGMを配置してうまくいったクラブはありますか。実際GMは、社長やオーナーが多いです。私もGMを置いた方が良いのではと思いましたが、監督との方針においてすれ違いが絶えなくなり大変なことになるということを聞きました。中にはうまく機能しているクラブもあるようですが、組織というものはシンプルが一番だと考えます。判断する人が増えると「船頭多くして船山に登る」と言いまして、サンガではGM職を置くことをしておりません。

(質問) 一元管理をするのは社長でしょうか。

(山中) 育成の話をしておりましたので、監督になります。

(質問) では、監督が変わるとチームが変わるのでしょうか。

(山中) そうですね、変わると思います。選手の育成や昇格を最終的に考えるのは監督だと思います。最終の承認をするのは私ですが、口出すつもりはありません。マインド的な部分を見ることはできますが、監督のご判断を尊重することが大事です。

次へ進みます。ここでは、システムを4-3-3にしてお話をさせていただきます。各ポジションの星印部分はすでに契約の合意に至っております。この星印の中には皆様が聞いて驚かれる選手が入っております。代理人や先方のこともありますため深くは申し上げられません。現状では、交渉中だとは言えませんが、この中には億単位の選手も入っております。そのため、双方の確認が取れ次第、公式発表をさせていただきます。皆様もこの情報が聞きたかったのでは。また、加入してくる選手と今の選手がポジション争いを繰り広げ成長し、そして、この星印の選手を押しつけてポジションを奪う選手をぜひとも褒めてやってください。特にDF陣には相当期待で、またボランチにも期待をしていただきたいです。

さて、ここからは皆様にお願いです。まず、メインとバックに各2名で合計4名のコールリーダーを配置していただき、スタジアム全体で大きな盛り上がりを作り上げていただきたいことがひとつ。そのために、この4名には、チケットをお渡しさせていただきます。これについては、連合会と詳細を詰めさせていただきます。

(質問) 社長、これは試合中でしょうか。

(山中) もちろん、試合中をお願いいたします。

2点目、集客についてです。従来も継続していただいております皆様のビラ配りですが、私は、招待事業を除きばらまき事業は廃止したいと思います。自分たちのコンテンツを陥れてどうするんだというのが思いです。年間チケットをご購入の方に失礼ですよね。小中高や福祉施設などは継続です。これを実行するために、サポーター様との連携も必要です。ある特定の場所たとえば、四条烏丸などを決めて配布をすること、もちろん皆様に任せるだけではダメで、これから監督にも調整が必要ですが、選手等の派遣も考えております。ファンクラブ会員限定ですが、割引券をお渡ししたいです。これにも割引率や内容を吟味する必要はあり今後の企画として進めていきたいと思います。

また、山瀬選手の奥様にご協力を依頼し、「アス飯」教室を実施したいと考えております。こういう形で有料入場者の数を増やし、潤沢な資金を蓄えることができるクラブにしたいです。クラブや選手情報を開示していきたいと考えております。ただし、ネットなどへの漏えいはぜひとも避けていただきたいです。これも相手があることですので、すべての信頼関係を築き上げるためにも協力を得やすい環境。次に行きます。私が準備してきましたものはここまでです。

**《ここから質疑応答の時間とさせていただきます》**

(質問) 石丸継続の前に他の監督へのオファーですが、強化部との相違なのか、それとも。

(山中) 9月の段階で、海外を除き人選を行い、クラブの方針に合致した監督が結果として、ご指摘の監督でした。メールでも回答いただきましたが、やってみたい仕事、すなわち、サンガの再生を強く思っていました。しかし、やるべき仕事とやってみたい仕事が違つたと、選手の慰留やチーム状況で苦しんでいるクラブを見捨てることはできないとおっしゃっていました。さすが、我々が惚れた方であつて素晴らしい方だと思います。でも、皆様、自信をもっていただきたい。今年のあのチーム状況の中から立て直し、直接勝利には結びつかなかつたけど、チームを負けなくしたあの手腕。そこを評価したいです。これからは勝利に導けるためにも、我々フロントとしては、石丸が希望するポジションや競争争いによる成長をバックアップできる動きをしなければならぬでしょう。

(質問) 6名の選手の補強が合意ですが、その6名で強化費が満額なのか。それとも他にもあるのか。

(山中) すべてのポジションで競争をさせるため、まだ決まっていない選手については星印を付けておりません。

(質問) 以前マスコミの報道でありましたが、希望する選手がJ1のクラブに取られるとありました。

(山中) 人間の交渉というのは売り買いではありません。彼らに申しましたのは、あなたが来れば自身もチームも成長できるよ。もちろんサンガでも当てはまることで、それが実感できるよ。ようは「この選手を獲得すれば穴は埋められる。」ではなく、「良き思いを持って動き出さない。」という話をしました。その結果、6人の中にはJ1や海外との交渉で勝ち取った選手もいます。サンガはハート、すなわち思いでいきます。ただし、みんな自分が育っていると思いを育てる環境を作ることが我々の仕事ですから。

(質問) 今年、監督主導で選手が取れなかった。今後もシーズン通してのチームとの関わりを教えてください。

(野口) 確かにその通りです。全部をそれぞれの想いで進めてしまうとシーズン通して良い結果を出せないと考えます。全てを任せることはせず、監督とひとつずつ検証を重ねて良きチームを作り上げていきます。シーズン途中であっても現存選手が同じベクトルとフィロソフィーで戦っていける環境をつくり上げていきたいです。

(質問) 前社長が懸念していたJリーグのルール(ライセンスのこと)は大丈夫でしょうか。

(山中) 大丈夫ではありません。皆さまにしかお願いできません。集客を多くすることしかありません。スポンサー様に対しては私は頑張って足を運びます。ご存じの通り3期連続赤字ではクラブ存続ができません。常にビビりながら活動しております。

(質問) 観客動員について、今の西京極で出来ることは。

(山中) 残念ながら今すぐ現スタジアム全体に屋根を付けることはできませんが、今検討していることは、コンビニなどで販売されているレインコートにロゴやエンブレムを入れて販売をすることです。第41節のアウェイ栃木戦のことです。皆、黄色いレインコートを着用し、よく見るとあれは生地が分厚く高価なものではなく生地が薄手でのものを着ている方が多かつた。このことを報告して社員に検討するよう話をしました。

(質問) クラブの今後のビジョンは。J1へ上がることが目標ではないはずで、J1チャンピオンやACLなど。どこまで落とし込めて共有できているのか。山中社長のお考えをうかがいたいです。

(山中) 京都新聞様で掲載された3回連載のうち、2回目のところで亀岡にスタジアムができて2018年と2019年にJ1を連覇したいと考えております。資金がどこまで続くか心配です。いくら強くても3期連続赤字だとライセンスに関わりません。大スポンサーから小口スポンサーまでご支援いただいております。今の実績では、増額してくださいとは今はなかなか申せません。まずは世界より国内連覇が第一優先だと思います。まず、私がそうありたいと思い、そして信じなければいけないので頑張ります。



- (質問) スポンサーについて、今年、アビスパ福岡が 190 のスポンサーから 1000 に、ということを知りました。
- (山中) 小口様を含め、ご支援いただいておりますスポンサー様がどのくらいあるかと思いますが、
- (質問) 200 くらいかな。
- それだとクラブは成り立たないです。これくらいです。もちろん今後も拡大努力をしていきます。大手スポンサー様からのご支援も取り組みます。先ほど「にわとりが先か」、「卵が先か」で今回「卵が先」と申しましたのはそういうことです。
- (質問) 社長の発言を聞いていると力強く信頼感を高めているところなんですけど、個人としてはすごくいいなと思うのでがんばってもらいたいのですが、フロントを組織として、もし社長が変わっても強く維持する為の考えとかをお聞き出来れば思うのですが。
- (山中) 率直に申し上げまして、いますぐにそれができないんですよ。というのが、こんなこと言うとちょっと選手上がりの方に失礼なんですけど、サッカーしか知らないで育ってきた人が多くて、いわゆる組織としての基本的な考え方というのを勉強していただいている最中です。サッカーに関しては、私は一言も勝てません。どんな論議をしたって。でも組織論という意味では、私が教えるしかないんですよ。実を言うと、初めてだったんですけど、(今年) 9 月に、全従業員 With Out 選手ですけど、の、コンパをやりました。何人いていただきましたかね。60 人位。ミーティングルームが溢れ返るほどのやつで、酒もとんでもなく用意したんですけど、すっからかんになって、尚且つ、やっぱり、うちの役員連中がつかまって、もうスナックとか行って、野口なんか意識がなくなる深夜 2 時くらいまで、みんなの意見を聞いていた。そこから始めて、みんながなんでも言えるような雰囲気をつくっていかないと、言っても大丈夫なんだ、というのを分からせないと、組織なんてつくれないんです。で、サポーターミーティングでは、また、色んな事をやったら報告はしますけれど、まず、そこに手を付け始めたばかりです。と、ということで、本日はご了解いただきたいです。
- (質問) ちなみに、京セラからの本気度というか、前は頼りない感じだったんですけども、その辺のパイプみたいなものは、変わったというか、力を入れているというのはあるんでしょうか。
- (山中) 私の本気度が、スポンサー様の本気度を上回る気迫があれば大丈夫です。それは、どっちがサンガが好きかの勝負ですよ。だから、誰やったかな。ここにいらっしゃる方に言われましたね。「また、あんた腰掛やろって。」言われましてね。「命がけでやるわい。」って言い返しましたが、それは嘘ではございません。
- (質問) 京セラの話が出たんですけど、京セラもそうですし、他の企業もそうですが、海外のクラブにスポンサードやっていたりんですけど、あの、サンガで言うと、海外のクラブと提携とか、していても、グルノーブルとか、そのくらいだと思うんですけど、今後、そういった展開とかお考えはあるんでしょうか。
- (山中) グルノーブル (訂正 : アトレチコ・マドリー) は、(スポンサードは) 京セラ株式会社じゃないんですよ、京セラドキュメントソリューション株式会社なんです。でも、ただ単にスポンサーをされているだけです。海外とのつながりははっきりいってございません。で、もっと言えば、前任のチーフスカウトが、うまく育てられたんで、うちのユースには優秀な人が多いので、下手な事をすると、もっていかれるだけですわ。だから、私は、今のところ、先ほど、提携の事もありませんが、今のところ世界には目を向けてないです。
- (質問) 亀岡のスタジアムとか、議員さんの圧力とかあるんですけど、そのへんの進捗状況とかお聞かせ願いたいのと、以前の社長さんが言っておられたんですけど、そろそろサンガタウンも老朽化がっていうので、建て直すお金を補強に使ったとか、前に、言われてたのを聞いたことがあるので、亀岡ができれば、そちらに移転されるのか、それとも、サンガタウンを直されるのか、その辺の展望について、お聞かせ願えたらと思います。



(山中) 菅沼 (選手) とか石櫃 (選手) とか、あのあたりと話しますと、京都サングの練習設備で、一番いいものって何かご存知ですか。実は「芝」なんです。「最高や」って言いますね。あそこまでやるには、児島さんってグラウンドキーパーの方がいらっやって、もう朝早くから夜遅くまで本当によくやっていただいて綺麗になってるんですけど、あんだけの芝をきっちり育てようとすると、時間がかかります。あの、改修はしますけど、いま雨漏りしてしょうがないのか、と言われると、そうではないんですね。そこに金を掛けるんやったら、選手に金を掛けようと、で、練習グラウンドの移転で大ごとなんですけど、幸い高速を使いますと、クラブハウスから亀岡まで、35 分くらいかな。私も自分で行きましたけど、だから、その部分に金を掛けることもないですし、当面の間、移転しようとも思っておりません。

(質問) スタジアムの事について、ちょっとお話をお願い出来ないでしょうか。

(山中) スタジアムにつきましては、あまりにも (立場が) 微妙なので、すみません。発言は差し控えさせていただきます。

(質問) 先ほど観客動員の話があったんですけども、当然対戦相手がいるわけで、対戦相手チームとの連携ですね。特に京都っていうのは、大学も多いですし、いろんな地方の人が集まってきますんで、対戦相手チーム、当然サングファンであっても、J の中で生きていけないといけないのですから、他の J のチームとの連携によって、観客動員を増やすとか、そういうアイデアっていうのは如何でしょうか。

(山中) 他のチームとの連携って考えた事なかったんですけど <質問者：あのとえばわかさスタジアムですね。オーロラビジョンが今年出来たんですけど、女子プロ野球なんですけど、あれでも京都が地元っていうのもあるんでしょうけど、他の対戦相手の情報なんて何も出ない。折角のオーロラビジョンがもったいないなって思うんですよ。また、対戦相手チームにもファンサービスっていうのはサングとしても提供できるんじゃないかと思うんですけど。> そういう意味なら分かりました。西京極にもオーロラビジョンがつきますんで、実は運営に、人も金もそうとう掛かるんですけど、そういった事ができるように、たとえば、(清水) エスパルスさんが来た時には、エスパルスサポーターの皆さん「ありがとうございます。」とか、そういう事くらいはですね出来るようにしていきたいと思います。ちょっと、いまそういうのを初めて聞いたんで、ちょっと答えに困りますが考えて参ります。

(質問) 先ほど、強くなればね、観客が増えてくるっていうふうに言われた部分があると思うんですが、確かにね、今までも、J1 に上がった時は増えてたし、そういう事もあるんですが、でもそれだけじゃなくね、もうちょっとサポーターの気持ちと言うかサングの歴史と言うかそういうものも考えたような何かアイデアがほしいと思うんですね。

(山中) ぜひ、提案してください。

(質問) 細かい話になりますがチラシ配りの話がありましたけど、たとえば西京極に行き易い地域に住んでいる人の家にポスティングする方が、多分一番効果があるんだと思うんですね。そういうアイデアもあると思います。

それから、ここ 2 年間、レジェンドマッチっていうのをやられていて、その時に会場に行くと、何年振りにサングに来たって言う人も結構いたんですね。昔はサングのファンやって、しばらく離れてたけど、レジェンドマッチだから来てみた。で、久しぶりやなって、サポーター同士が言い合っていて、そうゆうのもものすごく僕は良い事やなって、思っているんです。それは別に、レジェンドマッチを続けてくれて、言ってるのではなくて、何かサポーターの方にちゃんと向いたアイデアと言うか、そうゆうものもフロントの方にはもっていただけたらなという意味でレジェンドマッチを…

(山中) サポーターミーティングをどんどんやらせていただきますので…

(質問) だから、今日ここにでも来れない人もたくさんいる訳で、じゃその人たちに、どう伝えるのかとか、そういう部分はやっぱりネットで情報を出さないようにとかって言われても、今日ここで何をやっているか。なんて気にしている人もたくさんいると思うんですね。良い話もたくさん聞けて、希望も持てましたけども、もっと知らない人とか、ゆうたらライトサポとか言われる人とか、そういう人にも、届くような、何かちょっとそういうとも考えてほしいと思います。



- (山中) 率直にいいまして、私、かなり色々な事をしゃべりましたが、これはもう、西京極だけじゃなくて、良くお見かけする方、コアサポの方だと思っているんで言っている事も相当あります。じゃあ、それを全部ネットで流せるかっていいますと、それはちょっとですね…
- (質問) そういう事じゃなくて、たとえばサンガが、これから、今、社長が言われてた事で、ものすごく良い部分があったんです。そういう事をもっとたとえば、今もうサンガに来なくなったような人たちにもなんとか分かって欲しいんですよ、折角良い事をするんやったら。
- (細川) 広報の方で、いまアイデアがありまして、今ですねファンクラブの久保の方がですね、一生懸命色んな発信をしてくれていると思うんですけども、今はサポーターの方の意見やいろいろなお考えを中心に載せているんですけども、それをですね、クラブからの発信、今、まさにおっしゃられた様に、いまクラブが何を考えているかとか、監督が何を考えているかとか、そういう発信をどんどん増やしていこう事で、いまそういうアイデアを練っています。そして、それを実行していこうと思っています。そういう形で、どんどんいろんな方に、今日ここに集まりの本場にサンガのコアなサポーターだけではなくて、本当に、いまおっしゃられた、ライトサポとおっしゃられるような方々にも、クラブの考えを発信していきたいな、というふうに考えています。
- (山中) 細川さん言ったならやってや。出来ひん事は言ったらあかんで…と、広報が言っておりますのでやってまいります。
- (質問) ビラ配りの場の提供とありますが、ボランティアとかを募って、選手と一緒に駅前とかで、京都サンガを応援しようって事を、どんどん、ここにいる人もそうですし、サンガを好きな人で、全員でアピールしていける体制づくりが欲しいと思います。
- (山中) その通りで、これはあくまで、選手派遣と書いていますが、当然ながら私も含めて、ご覧の人員です。質問者：僕は積極的に参加して、サンガを知らない人たちにも、どんどん興味を持ってもらいたいな、いまサッカーに興味がない人でも、京都に住んでいる人もそやし、それ以外の人にも、一体となって巻き込んでやるチームになれば、このクラブはもっと成長すると思います。その通りだと思います。それは真剣に考えて参ります。
- (山中) 15分ほど時間が超過しておりますので、まだ、どうしてもという質問が…最後になりますが、よろしいでしょうか。
- (質問) Twitter のアカウントのコトノちゃんが、最近つぶやきがないんですけど。結構コトノちゃん待っている人いるので、コトノちゃんを呼んでください。
- (山中) 私自身 Twitter をまったくやっていないので、見ていませんけど、ちょっと伝えておきます。
- (山中) でも、申し訳ございません。ここの部屋の時間等もありますので終わらせていただきたく思いますが、どうしても発言したい方ありましたら、最後の一件。
- (野口) よろしいですか。最後に一言だけ言わせてください。毎年毎年、多大なるご声援やご支援をいただき本当にありがとうございます。今シーズンは、本当に不甲斐ない成績に終わってしまい、強化部の長として本当に責任を感じています。言い訳する余地はありませんし、言い訳するつもりもございません。本当に申し訳なかったと思っております。来シーズンは、今年の実績を活かして、私のサッカー人生を掛けて、本当に「J1 昇格」に向けてやっていきたいと思っておりますので、引き続き来年も、応援のほどよろしくお願いいたします。
- (山中) 最後に、選手の練習を見ている方はご存知の通り、みんな最後立って、輪になって「(手拍子) パン・パン」をやりますので、今日それで終わりたいと思います。
- よければ、ご起立お願いいたします。じゃ私が、来年がんばるぞって！ 言いますので (手拍子) パン・パンで終わらせていただきます。「京都サンガ来年がんばるぞ！ (手拍子) パン・パン」
- ありがとうございました。